

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100400		
法人名	有限会社 シルバーケア夢		
事業所名	グループホーム サンサン丸		
所在地	沖縄県那覇市首里末吉町3丁目60番地1		
自己評価作成日	平成27年1月9日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihontrue&Jizvsvocd=4790100400-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成27年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

。入浴が好きな時に好きな時間に入る事ができる。基本的には夜に入浴する事で身体の循環が良くなり、入眠しやすい環境を作ることができる。
 。口腔ケアを毎食後行っている。口腔内の衛生を保つと共に、嚥下の状態や食事の形態を検討し、御家族や歯科のドクターと連携をしてケアを行うことができる。
 ・食事を利用者の状態に合わせて、利用者と一緒に作ることができる。一緒に調理することで、意欲や自信を高めることができ、調理のできない方でも、臭覚や味覚、聴覚等の五感を刺激する。また食欲をそそる事で身体の維持向上を図ることができる。
 ・夢まつりを行うことで、地域の方との関わりや福祉に対する理解を深めることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、国道に面した4階建て複合施設の2階にある。1階は通所介護、3～4階は有料老人ホームで、開設3年余が経過している。本年度の運営方針で「地域交流」と「個別支援の充実」を掲げている。地域の協力で初めての「夢まつり」を開催し、三百人余の参加があり、地域住民に事業所を紹介し、交流を行うことができた。アセスメントは今年度からセンター方式を使用して、一人ひとりの個別支援計画に反映させ、諸記録の充実も図られている。食事は事業所内で調理しており、フロアから調理の様子が見え、五感への刺激等もあり、家庭的な雰囲気が伺える。利用者の意向を反映して日頃の散歩や遠出のドライブ等も頻繁に実施し、歩行訓練を行い、気分転換を図っている。入浴時間は自由に選べ、利用者の半数程が就寝前に入浴する等、利用者本位の支援を心掛け、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成27年4月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念づくりを行っている。	「笑顔で優しく、心から愛情をこめて」の理念のもと、3項目の方針を掲げ、職員はミーティング等で確認して主旨を共有している。今年度の運営方針で「個別支援の充実」と「地域との連携」を掲げ、地域を巻き込んだ「夢祭り」を開催している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りをを行い、地域の方との交流を深める。	地域交流を目的に、初めて「夢祭り」を開催して、三百人余の参加者があった。近隣住民に施設や利用者のことを理解してもらい、交流へと繋げた。隣接する保育園の園児とは、日頃から散歩や行事等で交流がある。地域の情報は、運営推進会議委員の自治会長から得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那覇市協働大使に参加し、健康福祉部に所属し、広報活動や啓蒙活動を行っている。またひやみかちウォーキングで利用者とボランティアに参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度に運営推進委員の方から祭りの企画が持ち上がり、今年度開催することができた。	運営推進会議は年6回定期的に開催し、毎回利用者や市担当者等が参加して、事故や外部評価等の報告を行っている。委員から、市内のグループホームの状況説明やバイタル、ホクナリテープ等の専門用語の説明を求められたり、事故対応への意見等も交わしたりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市のグループホーム連絡会に参加し、ケアの実情や困っている事等を話し合い、連携している。	市担当者とは、運営推進会議や市グループホーム連絡会で情報交換を行っている。今年度は事業所内の事故について、市担当者と連携して半年間協議を重ね、解決に至った事例があり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会の開催（マニュアルの読み合わせ等）	職員は、法人の身体拘束委員会やケース会議での事故検討会議等に参加して、身体拘束や虐待について理解し、身体拘束のないケアを実践している。家族には、利用開始時に身体拘束をしない事業所の方針を説明し、理解を求めている。	

沖縄県 (グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会への参加及び勉強会(マニュアルの読み合わせ等)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業に関する勉強会の開催(マニュアルの読み合わせ等)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族が納得がいくまで話し合いを行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・祭りの開催。 ・家族会の立ち上げを行い、御家族と交流しながら思いを受け、業務に反映させる。	利用者から「足を伸ばしてくつろぎたい」との声があり、休憩場所としてフロアに2畳の畳間を設置している。家族からは、面会時や行事の後等に意見を聞く機会があるが、運営に関する意見は殆どない。昨年、家族会を設立したが参加者が少なく、現在は活動が中断している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる仕組みをつくっている。互助会の行事や職員のお誕生会等の飲みみにケーションなどで話しやすい環境や意見を吸い上げ働きやすい環境づくりを随時検討している。	管理者は、職員会議はもとより、何時でも気軽に職員が意見や提案ができる雰囲気作りに努めている。法人の役員会に毎回職員代表も参加させ、意見を述べる機会を設けている。職員から夜勤者の休憩時間の確保についての提案があり、次年度からの実施が決まっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇の導入		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修委員の選任や勉強会の開催等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県GH連絡会への参加や那覇市GH連絡会への参加により職員間の交流を図っている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、ニーズの掘り起こし等に時間をかけてご本人様の話を聴く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、ニーズの掘り起こし等に時間をかけてご家族様の話を聴く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や医療機関との連携、薬剤師との連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントやケアプランを作成し、ケース会議等で検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により個別支援を行っている。またこちらへ足を運んでいただけるよう、行事への参加や外出支援等も行っており、御家族との関係性が途切れないような環境作りを支援している。	利用者の殆どが首里出身のため、毎年首里文化祭を見物して楽しんだり、生活で馴染みがあつた公設市場を見物する等の支援も実施している。利用者の過去の暮らしの把握は、家族からの情報が主となっており、暮らしの継続性の個別支援を今後の課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時に利用者がお互いをかばいあい、車椅子を押してくれたり、荷物を持ってくれたりして協力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院時支援を行い地域に繋いでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいアセスメントを実施、ケース会議や業務ミーティングの実施	アセスメントはセンター方式を使用し、一人ひとりの希望や意向等、きめ細かな情報を本人や家族から聴取して把握に努めている。過去に見たエイサーや沖縄芝居が見たい等の希望に、祭り見物を実施して応じている。意思表示が困難な利用者の場合は表情等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きめ細かいアセスメントを実施し、利用者様の馴染みの持ち物(畳や鏡台)の持ち込みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル表、体重表、排泄チェック記録、支援経過表、薬剤管理票を作成し記入することで、日々の体調管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師やご家族様、その他ディケアやディサービスとのカンファレンスを行っている。	アセスメントは個別担当者が作成している。モニタリングは毎月実施している。担当者会議には家族や利用者が参加し、意見は介護支援計画に反映させている。日々の個別活動やモニタリング、申し送り等の記録様式を整備し、サービスの実施内容を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務ミーティングやケース会議等で検討している。		

沖縄県（グループホーム サンサン丸）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時、外食支援、お正月やお盆等の帰省の支援。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	那覇市協働大使のボランティアに利用者様の希望で参加。他、地域や当事業所主催の祭りへの参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の病院受診に同行、もしくは日々の体調管理や状態を主治医に報告している。医師や看護師がカンファレンスに参加している。	かかりつけ医の受診は、原則として家族で対応し、受診結果は家族から口答で報告を受けている。家族対応が困難な場合は、職員が支援している。訪問診療や訪問歯科の利用もある。通院の際、NPO法人の介助ヘルパーを利用している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル表、体重表、排泄チェック記録、支援経過表、薬剤管理票を作成し記入することで、日々の体調管理を行っている。看護師との意見交換や状態の報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のカンファレンスに参加。急変時は同行し状態報告等の連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の中に、重度化した終末期に向けた方針を明記し、利用者様及びご家族に同意を得ている。医師を含めたカンファレンスを行い、終末期に向けた取り組みを行っている。	重度化や終末期について、「重度化した場合の対応にかかる指針」を作成し、入居時に説明している。状態に変化が生じた場合は、改めて家族の意志確認を行うこととし、過去に看取りの事例がある。終末期ケアについてのマニュアルが未作成で、職員研修も未実施となっている。	終末期ケアについてのマニュアルの整備、及び職員研修の実施が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先やご本人様の症状、薬の内容を作成している。外出時は持ち歩き緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に水や電気を備蓄するシステムがある。年に数回消防訓練を行い、非常時に備えている。	消防署立ち会いの下、複合施設全体で総合訓練を2回実施している。今月は夜間想定訓練も行い、運営推進会議の委員の参加があった。備蓄として米やラーメン等の食糧品を3日分程確保している。災害対応マニュアルも作成している。	災害時対応訓練の実施に際し、地域住民の協力が得られるような工夫が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務ミーティング等で話し合いを行っている。オムツや下着は見えるところに置かない等プライバシーに配慮している。利用者様にはわかりやすく丁寧な説明を心掛けている。	管理者は、「人格の尊重とは本人の意思を尊重すること」と捉え、ケース会議等で職員に周知を図っている。排泄ケアについては、「大きな声で言わない、オムツは見えない所に置く」等、言葉遣いやケアにおける基本的態度の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出は利用者様の意向によって決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は利用者様に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整容、爪切りの支援。理容事業者との連携。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感で感じる食事の提供を心がけている。台所で利用者様と一緒に料理を作ったり、香で食欲をそそるような支援、また見て美味しくそうな盛りつけを行っている。	食事は、事業所内で3食調理され、職員も一緒に摂っている。昨年食事について、聞き取りのアンケートを実施し、その結果、週1回のパン食を導入した。おかずを残しがちな利用者には丼物にする等の工夫をしている。行事の際には、ノンアルコールビールや刺身等の提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助、声掛けを行い、食事が楽しく十分な栄養がとれるような支援をしている。また嚥下の状態を確認し、誤嚥がないよう見守りを行っている。		

沖縄県 (グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施、訪問歯科との連携、緑茶でのうがいの実施		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の実施、声掛けや時間誘導で排尿のコントロールを行っている。排泄記録を主治医との連携に使用し報告を行い、連携して日々のケアに繋げている。	排泄チェック表で個別の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。ほぼ半数が介助を要する利用者で、同性介助を基本に支援している。トイレは全てウォッシュレットで、利用者も使用方法に慣れて清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質、イモ類の食事の提供や栄養バランスのとれた食事の提供、おやつ時のヨーグルト等の乳製品の提供等。また利用者様に応じた食事の形態(きざみ、ペースト、あちびー等)の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時、好きな時間に入浴ができる。自由な入浴。週2回、週3回、毎日の人、それぞれ違う。	入浴は週3回で時間は本人の希望に添っており、同性介助を基本としている。昨年、半数の利用者から夕方7時頃の入浴希望があり、実施したところ快眠効果が得られ、継続している。各自好みの入浴剤を使用し、月2~3回美容パックを行って肌の乾燥予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠記録を導入し、医師との連携を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成、誰が服薬したのかまた飲み忘れ防止や誤薬がないよう記録し、服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアへの参加や散歩を楽しんだり、演劇を鑑賞したりして、楽しみのある生活を送れるように支援している。		

沖縄県 (グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望により外出支援を行っている。またご家族との関係性が途切れないようにご家族との外出も楽しんでいただいている。	外出は、毎日のように事業所の周辺や近隣の公園に出かけるようにしている。地域の夕涼み会や十五夜祭り、スーパー、モノレール体験、ビーチ等へも出かけている。今年度から外出支援を個別支援計画に組み入れ、公設市場の見学や外食を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は金銭管理を行っていたが、今年度からは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	好きな時に御家族と電話や連絡を取ることができる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きなものをお部屋に持ち込み、リラックスできる環境づくりに努めている。折り紙や家族写真、鏡台や三線を好きなところに置いてある。	写真や作品は、共用空間の特定の場所に展示され、華美にならず落ち着いた雰囲気となっている。利用者はフロアのソファや畳間でくつろいだり、玄関先の長椅子で職員と一緒に外の様子を眺めたりしている。加湿器の使用で、乾燥予防を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間でトランプや風船バレー、おはじきやカラオケ等で楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具はゴザや畳、各自好きな物を利用している。テレビやラジオを持ち込み自由に使用することができる。	居室は、引き出し付きベッドと整理タンス、クーラーが設置され、週1回シーツ交換を行っている。利用者は、使いなれた馴染みの鏡台や毛布等の寝具、ラジオや聖書等を自由に持ち込んでいる。各々が居心地よく過ごせるような居室作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いじりのある方をトイレの前にお部屋を移動することで、トイレの場所が分かり、放尿がなくなったり、トイレを開けておくことで場所がわかり、失禁を減らすことができた。お部屋の入口に名前を付ける事で自分の部屋を間違えなくなった。		